

第1回 リレー講座 5.5.13

2023 第1回 リレー講座を以下の通り実施しました。多数のご参加ありがとうございました。参加者の皆様の様子をご覧ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

担当者 群馬大学共同教育学部附属教育実践センター
客員教授 久保 信行 先生

日程等 5月13日(土)

場所 C105

講義内容 考え議論する道徳科—議論を深めるために—

- ・ 子供が主体の問題解決的な道徳学習とは？
- ・ 小学校5年教材「すれちがい」(相互理解、寛容)をもとに、
子供主体の活動例を考えよう(班別活動)
- ・ 問題解決的な道徳学習における教師の問い方とは？



参加者の声より一部抜粋

教師主導の道徳の授業を考えたことしかなくてとても新鮮だった。子供を主役にする
ことは勇気がいることだが、すべて任せるのではなく、サポートや支援をすることで授
業を組み立てられるのかなと感じた。

今回もたくさん「考える道徳」でした。若い先生、院生の皆さんとの議論ができました。
「子供が頑張る道徳」「子供が問いをもつ」ということを改めて考えました。

まずは教師として、たくさんの「問い」をもつこと、そして子供たちへの指導方法をもちたいと思います。

まとめを役割演技でやってみせるというのが面白かったです。子供の今の心の内（考えていること）がよくわかると思いました。

道徳の授業を子供たちにとって価値ある授業にするために、教師のファシリテート力や聞き返しの問いに磨きをかけていきたいと考えました。

「子供たちに問いを立てさせる」ことが大切だと思いました。教師主導の授業づくりから脱却するためにも、子供たちが「話したい！」と思える発問をしていきたいです。加えて、子供たちと道徳科における話し合いの仕方について共通理解をしていきたいです。

道徳の授業を考える中で、同じ方向でも違う中心発問が設定され、とても参考になりました。また、資料を通して主体的に学ばせる必要性も感じました。実践してみたいと強く思いました。ただ、児童主体の授業づくりには、まだ自信がもてないので、これから練ってきたいです。

一つの資料を班で話し合いながら、問い、主発問、まとめの一連の展開について検討できてよかったです。ふだんの道徳は、ひとりで考えることが多いのでとても有意義な活動でした。現場でもこのような時間がとれたらよいなと思いました。一時間半では、不足する内容の濃さでした。